

あおばコミュニティ・テラスでの体験的な学び

竹 原 和 泉*

きょうはNPO法人まちと学校のみらいが運営しているあおばコミュニティ・テラスについて話をしたいと思います。

その前に、まず自己紹介をさせていただきます。かつて青山学院大学文学部教育学科に入学、大学1年の夏の岩手県田野畑村での活動が原点になっています。影絵やストーリーテリングをし、子どもたちのために何かしてあげようつもりで行きましたが、むしろ私が学んだという確かな気づきがありました。この体験が私の人生を変えました。学校の外にこんな出会いや学びがあることを知り、社会教育に携わりたいと考えるようになりました。

けれども社会教育のフィールドでは就職先がみつからず、「企業に入って、まず勉強したらいい。リアルな社会がどうなっているか知ることが将来役立つだろう」という稲生先生のアドバイスで企業に就職しました。その後結婚、フランス、日本、アメリカで出産・子育て・PTA活動をしながら、まちはどのように動いているのか、学校と地域はどうつながっているのか等、生活者として体験しました。

日本に落ち着いたのが46歳、横浜市都筑区社会教育指導員公募に応募し再就職、その後横浜市教育委員会ですべての社会教育関係職員の研修や市民活動のバックアップをしてきました。さらに平成17年県内初のコミュニティ・スクールとして開校した東山田中学校に併設されたコミュニティ・ハウス館長として、11年間学校と地域をむすび、学校運営協議会委員として新しい学校づくりをしてまいりました。その間NPO法人まちと学校のみらいを設立、現在は、

青葉区青少年の地域活動拠点あおばコミュニティ・テラスを運営しています。

NPO法人まちと学校のみらいは、まちづくりと学校・地域の連携をテーマに活動しています。NPO法人の趣旨に「私たちは子どもを地域全体で育み、より良い地域にしていくための営みとして、市民が日常的に教育に関わり、大人も子どもとともに学ぶ地域協働の場を創ることを使命とし、社会に貢献してまいります。」と記しています。

現在全国で展開されているコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を推進するとともに、青少年の地域活動拠点という場の力をいかし次世代育成とまちづくりをしています。

令和2年横浜市青葉区にオープンした青少年の地域活動拠点あおばコミュニティ・テラスは横浜市こども青少年局の事業としてNPOまちと学校のみらいが運営しています。

駅から2分という便利な商店街にある、かつて美容院だったところで、コンクリートがむき出しのまま、床も電気も水道も何にもない状態で借り、空間をつくることから始めました。最後に左官屋さんを講師に招き、子どもも大人も一緒に壁塗りをしました。綺麗に塗れているところと、でこぼこだったりムラがあったりするところがありますが、みんなで作った証です。ガラス張りの中二階で明るいテラスのようなところであり、まちの未来と子どもたちの未来を照らすという願いを込め、あおばコミュニティ・テラスという名前をワークショップを経て決めました。

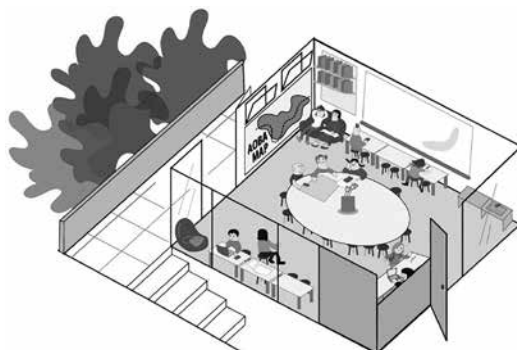
* NPO 法人まちと学校のみらい代表理事

ここは次世代育成の場であり、多彩な人の出会いと学びの場になっています。中高生大学生だけでなく、地域の方や企業の方も、赤ちゃんからお年寄りまで、さまざまな人が出入りすることでゆるやかな関係が生まれ、化学変化が起きます。それがまちづくりにつながるようコーディネートする中間支援組織としての役割も果たしています。

あおばコミュニティ・テラスはサードプレイスです。学校でも家庭でもない、もうひとつの居場所、安心できる場所。ここでは学校と違って飲食も自由。おしゃべりをしたり、勉強したり、ただ本を読んだり、フリーWi-Fiも使えますのでリモート授業を受ける高校生、大学生もいる自由な空間です。

また中高生、特に保護者の方も含め、学校生活のこと、進路のこと等について、もやもやした困りごとや悩みがある時「えんがわ相談」ができます。カフェで話すように気楽に、最初の相談先として、まさに縁側で話すよう語れる場です。さらに保護者同士でゆっくり語り合える場「思春期お茶の間会」も開催しています。縁側から靴を脱いでちょっと中に入って、お茶の間の雰囲気、というのがコンセプトです。あおばコミュニティ・テラスのコーディネーターの中には公認心理士等の資格を持ったメンバーもいて、安心して語ることができ、必要に応じて専門機関につなぐこともできます。

あおばコミュニティ・テラスはその他に教育・市民活動・福祉等異なった専門性を持つコーディネーター9人がチームとして動いています。



あおばコミュニティ・テラスで最も大切にしていることは、中高生・大学生の主体的な活動を支えることです。ロジャー・ハートが、子どもの参画をはしごになぞらえて図式化しましたが、あおばコミュニティ・テラスにおける活動にもステップがあります。

第1のステップは居場所として集うこと。第2のステップはプログラムに参加すること。第3のステップは企画や運営から関わります。第4のステップは、自ら発案し企画実行すること。必ずしも参画度が高いことが良いというわけではありませんが、それぞれが主体的にやってみたいことができ、さまざまな可能性を試せるよう、何よりも地域ならではの柔軟性とネットワークをいかした動きをつくっています。



あおばコミュニティ・テラスの主な事業を紹介します。

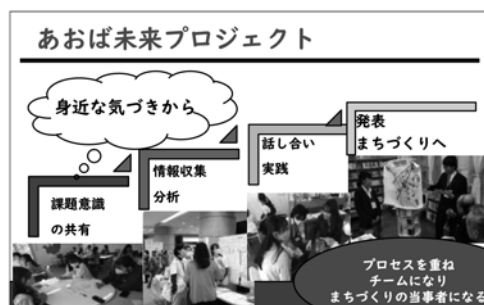
◆あおば未来プロジェクト：まちの魅力を高め、地域課題を解決する活動

毎年6月から3月までのプログラムですが、広報を見て集まった中高生が今年も20名5チームで活動し、大学生16人がサポーターとしてかかわっています。大学生は、あくまでサポートする役割で、中高生の思いを引き出したり伴走します。大学生は中高生にとって頼りになる憧れの存在で、大学生になったらサポーターになりたいという高校3年生が毎年います。

このプロジェクトはまずひとりひとりが身近な日常生活で気になること、実現したいことを考えることからスタートします。そして、同じような思いの人、考えの人がチームになっていきます。今年は、世代間交流をしたい、ご近所の方とのつながりをつくりたい、交通事故のないまちにしたい、小学校給食の食べ残しを少なくしたい、同年代の横のつながりをつくりたいという5チームが動き始めています。活動のプロセスとして、まずフィールドワーク、区民まつりの場でのヒアリング、グーグルフォーム等でのアンケート調査等で現状把握をし、話し合いを重ね活動をつくっていきます。3月には活動発表とともに、青葉区長への政策提言も行います。

過去の活動例としては、防災のグループがありました。今まで学校での防災訓練は役に立たなかったということから、高校生ならではの

目線で小学生向けの防災マニュアル「まもるノート」を作りました。その後実際に小学校でワークショップをし、さらに特別支援学校高等部の防災キャンプや地域のプログラムに出かけプログラムを実施しています。



◆あおばユーストライ：夏休みの地域ボランティア活動

中高生のボランティア活動を、青山学院コミュニティ人間科学部の地域実習としてかかわってくださっています。

大学生の役割は、中高生が楽しく活動できるように伴走することです。中高生の地域での学びや体験を円滑にすすめ、深い学びになるよう、支えていただきたいと思います。そのためにオリエンテーション、活動当日、そして活動終了後の振り返りワークショップまでの流れを理解し、企画からかかわります。

20時間の地域実習では、初日にあおばユーストライのコンセプトを学び、その後実際にまちを歩き、区役所や社会福祉協議会を訪問、地域の状況を知る機会を持ちます。

2日目はボランティア先の施設・団体に向き打ち合わせをします。施設・団体の活動内容、中高生を受け入れる思いをお聴きしながら、まず良い関係をつくることの重要性を理解します。さらに当日は何時に集まりますか、どんな服装で来たらいいですか、もし雨だったらどうしますか等、具体的な打ち合わせをしていただきます。

そして夏休みに入ってすぐ、オリエンテー

ションを開催します。大学生がデザインしたチラシと横浜市の広報青葉区版で募集し、今年は延べ50人の中高生が参加しました。

いきなりボランティア先に行くのではなく、中高生が充実したボランティア活動ができるように、どのようなオリエンテーションをすればいいか、仲間になって活動するためにどんな配慮が必要か等、話し合ってから準備します。

オリエンテーションでは大学生の創意工夫によるアイスブレイクが好評で、どのグループも次第に会話が弾みなごやかな雰囲気になり、あっという間にチーム感ができます。

そして、いよいよ夏休みには中高生と一緒に農業体験・福祉体験・商店街のゴミ拾い・夏祭りの手伝い等のボランティア活動を行います。中高生はどきどきしながらボランティアに参加しているので、大学生が声をかけたり、率先して動くことで、安心して活動できるようになります。

最後にプログラム終了後、全員で振り返りワークショップをしますが、その企画運営もしていただきます。

このようにあおばユーストライの企画に主体的にかかわり、オリエンテーションでの司会、当日受付、アイスブレイク、中高生への対応さまざまな役割を担っていただくとともに、毎回大学生とコーディネーターでミーティングを行い、より充実した地域実習になるよう努めています。



参加した中高生の感想として、何気なく見ていたまちは誰かがきれいにしてくださっていることに気づいた、普段会ったことがない地域の人や、大学生に会えて楽しかった、いろんなことに挑戦できて良かった等の感想がありました。中には夏休みの宿題だから参加したという動機の中高生もありますが、やってみたら面白かったので今後も来ていいですかという変化もありました。このボランティア体験をきっかけにあおば未来プロジェクトに参加し、まちづくりの活動にかかわり始めた学生もいます。

次に地域実習後の大学生のメッセージを紹介します。

- ・何かやってあげなきゃ、リードしなきゃとずっと気負っていたけれど、お互いが学び合うのだと気が付いた。
- ・地域にはいろいろな人がいて、いろいろな出会いがあることがわかった。人と人のつながりの重要性がわかり、自分自身の夢や希望も大きく膨らんでいく可能性を感じた。
- ・中高生に任せることで、豊かなアイデアや活動の楽しさが生まれた。
- ・何でもやってあげるのではなく、一緒に考えたり話ができる雰囲気が大切で、活動はみんなで作るものだということがわかった。中高生から学ぶことが多かった。
- ・何かを成し遂げるには、準備を綿密にし、さらに振り返る必要があることを学んだ。振り返りによって自分にはない視点やアイデア

を得ることができた。

ボランティア活動には双方向性があります。一方的に何かをしてあげるのではなく、双方にとって気づきや学びがあります。何よりもボランティア活動で多くの出会いを経験し、地域活動を楽しいと実感できることが大事だと思っています。

◆Youth Wave：主体的なまちづくりの活動

まちをアートでつなぎたいと考え「らくがきフェスタ」を企画しました。公園で思い切りチョークで落書きをする催しで、春休みの恒例イベントとして親子連れが多く集まり多世代が交流する場になってきました。学校の美術の時間で描くのは落書きではありませんが、地域ではもっと型を破れる「らくがきフェスタ」を考え企画しました。事前に土木事務所に公園使用許可書を申請し、公園愛護会や自治会の方に挨拶にうかがい、チラシを作成し小学校に配布し参加者を募集します。らくがきフェスタでは終了後水を流し、デッキブラシで絵を消し、元に戻すまでを活動としています。ところが水はけが悪くいつまでも水たまりが消えないことが判明、排水路の改善が必要だと土木事務所へ提案することができました。そんなリアルな経験ができるのも、地域ならではの活動だから、すべてはやってみたいという思いから始まりました。



これら3つの活動に共通するのは地域ならではの出会いと学びです。うまくいくことばかりではなく、地域の方からお叱りを受けたり、ハプニングも起こります。それが大事なことで、地域での活動は必ずしも計画通りにできるものではなくて、偶発的にさまざまなことが起こり、思いがけない出会いがあります。

学校教育とは異なる実社会でのリアルな経験ができるのも地域です。臨機応変に対応している大学生や大人を見ることも、中高生にとって大きな力になります。「まちづくりは大人がするものだと思っていたけど、私たちができると思ったらわくわくする」と語った中学生がいました。

社会に出ると、決められたことをするだけでなく、自ら考え動くことが多くなると思います。シナリオどおりに行くことのほうが少ないかもしれません。予想を超えた展開が待っていると思います。みなさんも地域実習でその一端を実感してくださればと思っています。

主体的・協働的に活動する経験は次第に市民性の醸成につながることを確信し、あおばコミュニティ・テラスを運営しています。

皆さんが地域実習に来るのは2年後ですね。そのとき、コロナがどれだけ落ち着いているか、どういう社会になっているかわかりませんが、歩みを止めずに活動をすすめていけたらと思っています。こういう活動に関心があれば是非あおばコミュニティ・テラスにいらしてください。

さい。お待ちしております。

